

教育用語辞典

「教育用語辞典」第1回目では、難易度の高い語として「ルーブリック」を取り上げました。今からチェックして、職員室で注目されましょう。

「教育特区」

レベル★

「きょういくとつく」

小泉内閣による規制緩和のひとつである「構造改革特区」の中の、教育分野に関わる試みをいう。学習指導要領の枠にとられずに、地方自治体が様々な施策を行うことができる。

著名なところでは、「太田外国語教育特区（第一回認定 群馬県太田市）」がある。認定第一号であり、国語以外の教科を英語で授業する「太田国際アカデミー」を私立学校として設置する、という内容。
【用例】「〇〇市も今度、教育特区認定の申請をするらしいよ。」「どんな内容で教育特区の申請をするんだろう。」

「目標の数値化」

レベル★★★

「もくひょうのすうちか」

到達目標を数値として表すこと。または到達目標に、達成すべき数値を盛り込むこと。

「学校から出される情報は、抽象的な表現が多く、あいまいでわかりにくい」という声を受けて、取り入れる動きが出てきた。平成14年の「中教審答申」でも「授業がわからない子ども半減」「いじめ・校内暴力の半減」等の項目が、具体的な数値目標の例として示されている。

【用例】「教育目標を数値化して、学校を活性化しよう。」「教職員全員が合意できる数値目標を決めよう。」

「ルーブリック」

レベル★★★

「るーぶりっく」

広義には評価基準を示すもののほとんどを指すが、一般的には、複数の評価項目と各到達度に対応するパフォーマンスを表した評価語で構成された一覧表のことをいう。学習者にも提示することによって、学習目標として役立てることもできる。総合的な学習の時間等のプロセスの評価をより妥当なものに高めたり、絶対評価での評価のゆらぎを、ある程度改善したりすることができる。

【用例】「発表会のルーブリックを作ろう。」
「ルーブリックを児童と共有しよう。」



文 | 山中伸之 (壬生町立稲葉小学校) イラスト | 吉田朋子